

⑭感覚・運動器系 1

(眼 科)

1. 研修目標

眼科に関する知識及び他科診療領域との関連性を十分に理解し、眼科診療の基本手技を修得し、眼科救急疾患にも対応できる能力を養成するとともに、患者と医師の人間関係について理解を深め、医師のあり方を体得させることにある。

2. 研修指導体制

指導医のもと、最初の2週間で、眼科検査手技の基本を修得させる。週一回の研修医講義で3か月間に修得すべき眼科知識を会得させる。その後、指導医を中心に、それ以外の学会認定眼科専門医を加え、マン・ツー・マンで研修医の指導に当たる。

3. 研修指導責任者 北岡 隆

4. 研修内容

上記に述べたように、最初の2週間で、眼科検査手技の基本を修得させ、週一回の研修医講義で3か月間に修得すべき眼科知識を会得させる。病棟では、主治医として入院患者の治療に従事し、指導医のもと、その実際を行う。外来では病歴を取得し、指導医とともに患者診療を行う。手術介助も行わせる。救急処置を指導し、豊富な救急症例から、3か月間に100例以上の眼科救急症例を体験させる。週一回の研究会で、英語臨床論文の読み方、渉猟方法を指導、眼底写真、蛍光眼底造影写真の読影会で、基本的読影法を修得させる。手術検討会では、手術適応の決め方、手術に対する基本的倫理観を養成する。

(1) 基本手技

①面接技法 ②投薬処方 ③注射手技 ④文書・記録作成法

(2) 診断技術

①視力・屈折検査 ②視野検査（動的・静的視野検査） ③眼圧測定 ④色覚検査 ⑤眼位検査 ⑥隅角鏡検査 ⑦眼球突出時計 ⑧細隙灯顕微鏡検査 ⑨細隙灯顕微鏡写真撮影、読影 ⑩眼底検査 ⑪眼底写真撮影、読影 ⑫眼科画像読影（CT、MRI、echo、OCT） ⑬蛍光眼底写真撮影、読影

(3) 治療技術

①基本的手技（点眼、洗眼、結膜下注射） ②伝染性疾患の予防・治療 ③非穿孔性眼外傷（前房出血、眼窩吹きぬけ骨折等） ④急性眼疾患の非外科的治療 ⑤眼鏡及びコンタクトレンズ処方 ⑥豚眼を使用した内眼手術（白内障、硝子体手術）の練習 ⑥眼手術の直接介助

(4) その他

①文献検索法 ②抄読会・症例報告会参加 ③各種カンファレンス

5. 研修到達目標

5-1 行動目標

一般的研修行動目標達成に努力する。上記、目標達成に努力するのは当然であるが、以下眼科的な細やかさが求められる。（患者）患者の失明に対する不安を理解し、個々の患者にきめ細やかな対応及び人間関係を確立する。不幸にして視力低下が免れない患者に対しては、その心的葛藤を理解する一方、感情に流されない冷静かつ暖かな対応・配慮ができる。視力不良者に対しては、その視力に応じた、言葉での説明・誘導ができる。また、健常視力者に対する以上に、繊細な言葉遣いができる。（パラメディカル）眼科診療で得られる情報は、医師の診療によるしかないものが多く、その情報をパラメディカルと共有し、患者ケアに役立たせることができる。（安全管理）眼科特殊機器の安全な使用方法を理解し、眼科安全管理を理解する。視力不良の患者の実際を理解し、その行動範囲・限界を把握する。

5－2 経験目標

(1) 基本手技

- ①面接技法：問診、視診ができ、記載ができる。
- ②投薬処方：基本的な眼科で用いる点眼、内服薬の効果、副作用、投与方法を理解し、処方ができる。
- ③注射手技：結膜注射など、眼科特有の注射方法を理解し、修得する。
- ④文書・記録作成法：前眼部、眼底スケッチなど眼科特有の診療記録記載方法と医学用語を理解し、記載できる。

(2) 診断技術

- ①視力・屈折検査 ②視野検査（動的・静的視野検査） ③眼圧測定 ④色覚検査
 - ⑤眼位検査 ⑥隅角鏡検査 ⑦眼球突出時計 ⑧細隙灯顕微鏡検査 ⑨細隙灯顕微鏡写真撮影、読影 ⑩眼底検査 ⑪眼底写真撮影、読影 ⑫蛍光眼底写真撮影、読影 ⑬眼科超音波検査 ⑭光干渉断層計 ⑮眼科画像読影（CT、MRI）
- 上記①から⑮の検査を理解し、修得する。

(3) 治療技術

- ①ウイルス性結膜炎をはじめ、伝染性疾患の予防・治療。
- ②非穿孔性眼外傷（前房出血、眼窩吹きぬけ骨折等）の診断と治療。
- ③急性眼疾患（緑内障発作、球後性視神経炎、網膜中心動脈閉塞症）の非外科的治療。
- ④眼鏡及びコンタクトレンズ処方。
- ⑤豚眼を使用した内眼手術（白内障、硝子体手術）の練習。
- ⑥眼手術の直接介助。

(4) その他

- ①文献検索法。
- ②抄読会・症例報告会参加。
- ③各種カンファレンス。

